

## 第2 教育研究団体の意見・評価

### ○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 博田 英明 会員数 約60,000人)

T E L 03-3267-8583

#### 1 前 文

今年で3年目となる共通テストでも、昨年と同様に過去のセンター試験で出題された発音やアクセント、語順整序等を単独で問う問題はなく、様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっている。外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。

昨年と比較し、大問は6問と変化がなかったが、設問は38から39と1個増え、解答数は48から49と1個増えた。本文と設問及び選択肢を合わせた総語数は約6,000語で昨年と同程度ではあったが、受験者にとってはかなりの速読力が求められ、新傾向の問題も登場し、最後まで解き終えることができなかった受験者がいたことが予想される。一律な英文の読み方をするのではなく、素材となる英文の種類や示される図や資料等を理解し、目的に応じて様々な読み方をするのが要求され、設問の趣旨に合った読み方をしなければ時間が不足する。速読と精読のバランスや効果測定の観点、特に思考力を測定する観点からすると、これ以上語数を増やすことは有効でないと考え。情報量が増え、問題も複雑になり、短い時間の中で単に注意力や情報処理能力を測定するような試験に陥るのではなく、じっくりと考える時間を設定して思考力を十分に測るような試験問題に改善することが求められるのではないかと考える。令和5年度「英語（リーディング）」の本試験の平均点は「53.81点」であり、昨年「61.80点」から「7.99点」下がり、かなり難化したという結果になった。今後大問と小問ごとの正答率や弁別率、得点分布など更に詳しい分析結果の発表が待たれるところである。

#### 2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

令和5年度の共通テスト「英語（リーディング）」は以下のような構成であった。

大問		内容	配点	設問数	解答数
大問1	A	オーディオ・ガイドの使い方に関する指示書	10	2	2
	B	国際映画祭についてのフライヤー		3	3
大問2	A	新しいタイプの進化した財布についての記述	20	5	5
	B	イギリスでの英語学習に関する記事		5	5
大問3	A	ゴースト・カーブに関する記事	15	2	2
	B	自信をつけることについてのエッセイ		3	6
大問4		菜園の運営についてのメールのやり取り	16	5	6
大問5		芸術家を目指す主人公を描いた物語文	15	5	9
大問6	A	海洋生物についての記事	24	4	5
	B	グラフェンについて書かれた記事		5	6

第1問 資料に示された事項についての情報の読み取りとその内容の読み取りに関する設問である。設問数は5問、10点の配点で昨年と同じである。実際のコミュニケーションで出会う様々な

形式の情報を読み取り、その情報を基に必要な情報を把握する力が求められる問題である。

A 城の中をツアーする際に用いるオーディオ・ガイドについて書かれた指示書を読み取る問題。

①, ②とも平易な問題で受験者にとっては取り組みやすい問題であったと思われる。ただし、英文中盤に「自動応答システム」のような機能について説明しているが、ややイメージしにくいものである。できるだけ日常のコンテキストに根差したもので、受験者が想起しやすい内容とされたい。設問2は、英文の“questionnaire”と選択肢中の“feedback”が言い換えであることに気付けば解答できる。ややシンプルな読解問題のような印象があり、本試験第1問②で求めているねらいとは異なっている印象がある。

B 国際短編映画祭について情報が掲載されているフライヤーを読み、必要な情報を読み取る力が問われている。③から⑤にかけて、Aのように読解問題に近い印象がある。④は「Cinema Paradiseでは何が行われるか」という問いで、本文には“special reception”とだけしか言及がない。②, ③, ④が偽肢であることは明確であるので、①の“An event to celebrate the festival”を解答として導くことはできるが、“special reception”が“An event to celebrate the festival”と考えることは消去法以外では確信に至ることは難しい。このBの問題についても、本試験第1問Bで求めているねらいとはかなり異なっている印象がある。つまり受験者の解答行為における作業量に相違が生じている。公平さには十分留意されたい。

第2問 資料に示された事項についての概要や要点の読み取りに関する設問である。設問数は10問、20点の配点で昨年と同じである。本試験では「事実」と「意見」の区別が問われるなど、複数の情報を客観的に判断するなど思考力・判断力が求められる出題となっている。追・再試験では「事実」を答える問題のみであった。またイギリス英語の使用も見られた。

A 新しいタイプの財布に関する友人からのメッセージを読み、財布の特徴や利点をつかみ、また使用者のコメントを読み取ることが求められている。このような場面設定は同時代的で、現代のコミュニケーション場면을想定しているものであり好ましい。⑦は、示されたコメントの中から「事実」を区別することを求めている。⑧, ⑨とも、使用者のコメントを抽象化するような読解が必要である。全体として平易であり受験者にとっても取り組みやすく良問である。

B 英語を勉強するためにイギリスで2週間を過ごした主人公の経験を述べた記事を読み、概要や要点を把握して、複数の情報を整理する問題であった。英文はとても平易であるが、展開が目まぐるしく、作問上致し方ないところかもしれないが、やや箇条書きにも思われるような流れであったことは残念である。⑭は仮定法と直説法の文法的な理解を直接聞くのではなく、内容理解を通して聞いているのは見事である。このようなコミュニケーションに必要な「知識・技能」の必要性を感じさせる問題については、今後も進化を期待したい。

第3問 資料に示された事項についての概要や要点を読み取り、本文に示されているイラストや情報を結び付けて読むことが問われている。また、時系列をまとめる問題は今年も出題されている。設問数は5問、15点の配点で昨年と同じである。

A 鯉を飼っている留学生が書いた鯉に関する記事を読み、必要な情報を示されたイラストとともに把握することが求められている。筆者が鯉を飼い始めた理由、その鯉の体長や現況、ゴースト・カーブの特徴などの英文には様々な情報が示されているが、⑮, ⑯で求められている読解は限定的で、とても平易なものであった。もう少し英文の情報を複合的に問う問題であっても良かったと思われる。

B プレゼンテーション・スキルを向上させることに成功した人のエッセイを読み、必要な情報を読み取り、その内容を時系列で把握することなどが求められている。⑰から⑳は出来

事を時系列に並べ換える問題であった。この種の問題はこれまでも出題されているが、読む目的が明確となり取り組みやすいと言える。22、23も平易な問題で受験者にとっては取り組みやすい問題であったと思われる。また、英文には“realised”, “learnt”などのイギリス英語が使用されている。

第4問 菜園の運営について、3名でのメールのやり取りを読み、それらを結び付けて考えることが求められている。設問数は5問、16点の配点で昨年と同じである。一人目のメールから、二人目、三人目と関連性がある。それらの内容を把握することはもとより、それらの互いの共通点や相違点などをつかむことが問われている。全体として示されている情報が極めて多い。「植えの時期」、「収穫の時期」、「菜園のレイアウト」、「野菜の“friends”と“enemies”」等、さらにそれらについて複数でやり取りされている。これだけの情報を整理するのは、受験者にとってはある程度の時間も気力も必要だったと思われる。28では、野菜の“friends”と“enemies”の関係を示すイラストを選ぶことが求められている。これはレイチェルからの2つ目のメール後半部分を丁寧に読むことが必要になるが、“The onions can be put in the middle because they are friends of both tomatoes and cabbages.”の部分に素早く着目できないと、時間をかけざるを得ない問題となる。問題としては練られたものであると考えるが、受験者の負担はかなり大きいと思われる。前問の第3問とは明らかに異なる負荷となっている。29も含めて良問であるが、もう少し問題間のバランスを考慮されたい。

第5問 まとまりのある文章を読み、必要な情報を整理したり、時系列をまとめたり、文章から読み取れる内容を考えさせる問題である。設問数は5問、15点の配点で昨年と同じである。場面設定としては英語の時間にワークシートを活用して短い物語を紹介する、というものである。今年の第5問は、本試験でも「随筆文」となっている。場面設定としてはディスカッションでの発表をするというものであるが、英文自体は体温を感じる物語風のものであり、今後もこのような英文が扱われることを期待したい。幅広い読解力を育成する、という意味でもこのような文章を読む機会は受験者にぜひ持ってもらいたい。31から34は、英文の内容をメモという形でまとめられた空所部分について答える問題である。時系列で並べ換える問いを含めた内容理解を問う問題であり、平易で受験者にとっても取り組みやすかったと思われる。35、36は主人公の絵を描く技術が改善した要素を問うているが、①に“cannot help ~ing”の知識を必要とする英文があり、直接的ではない文法知識の問い方として見事である。38は、その物語から得られる教訓を答えるもので、英文の内容を言わば「抽象化」することが求められており、単なる英文理解ではない良問と言える。このような温かみのある物語文を介して、新しい学力観を反映した問題作成をすることにはご苦労があったかもしれないが、受験者がこういった英文を読む動機となるためにも、この出題の方向性は続けていただきたい。

第6問 説明的な文章を読み、それに示された事項についての概要や要点の読み取りを求める設問である。設問数は9問、24点の配点で、設問が1問増えている。問題文と設問文を合わせると約2,000語に達し、文章の論理展開や流れを把握することを求められており、受験者にとっては相当な速読力と読解力が求められる。

A 「海洋生物」に関して述べられている記事を読み、それを発表するために要旨を作成し、さらにその内容を基にクイズを作成する、という設定である。39から43にかけて、要旨の内容に沿って英文の内容理解を問うものである。タコの話の掘り下げた内容になっており、一見すると難解に思われるが、論理展開が明確で、例示も分かりやすく受験者にとってもやりがいのある問題であったと思われる。

B グラフェンに関する英文を読み、校内プレゼンテーションのために作成するポスターのスラ

イドの空所に当てはまる内容を答える問題である。まず結論として、難易度が高い問題である。題材自体が身近なものではなくイメージしにくいものであり、英文の表現だけで、粘着テープを使ったグラフェンの剥離法を理解するのは難しかったかもしれない。推測しながら読み進めていく力を問う、という意味では、このような題材は必要になるが、学習指導要領では、「実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすること」を目標としており、それに基づいて共通テストは作成されていることが、大学入試センター発表の問題作成方針にも示されている。あまりにも想起しにくいテーマやトピックになりすぎないように、その点については御配慮願いたい。

### 3 総評・まとめ

本稿では2023年度（令和5年度）共通テスト「英語（リーディング）」（追・再試験）について検討してきた。大学入試センター発表の問題作成方針にも示されているように、「知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という方針での作問には、大変なご苦勞と創意工夫が必要とされると拝察する。実際に、過去のセンター試験で出題された発音やアクセント、語順整序等を単独で問う問題はなく、様々な資料や図表を通して英文を読み、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う内容となっており、また、外国語に関する様々な知識を実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける、という学習指導要領における目標を反映した出題となっている。受験者が身に付けた力を十分に発揮できる良問も多い。だからこそ、第2項でいくつか指摘したように、単に作業量が増えることによる負荷については、慎重な検討をお願いしたい。受験者がその種の問題の対応に過分に注力することは避けたい。さらに、今年の本試験第5問で「随筆文」が登場したように、扱われる英文については、その題材や形式については幅広いものとなるように今後も検討をお願いしたい。そうしたことによって、教員の実際の指導や生徒の学びもより豊かなものになっていくと考えられる。

### 4 今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）に記載。